



成田中だより

令和6年3月21日
 成田市立成田中学校
 TEL 0476-22-0304
 生徒数 504名
 文責 濱谷 昌人

《令和5年度学校教育目標》『 夢 へ 』

「誰もが夢を持ち、明日も行きたいと思える学校」を生徒とともに目指します！

卒業生の魂の歌声「行こう ふたたび ～ 旅立つ日～」 感動の卒業式！



卒業式から1週間以上過ぎた今も、H学年のあの素晴らしい卒業式の余韻が心に残っています。体育館いっぱいに響き渡った卒業の歌『行こう ふたたび』と全校合唱『群青』が耳から離れません。卒業生がステージに用意された雛壇に立って歌い上げた卒業の歌『行こう ふたたび』に心が震えました。予行でも披露されていなかったもので、あの体育館が揺れるような大合唱は、在校生と3年生以外の我々職員にとっては卒業式での大きなサプライズでもありました。この学年の歌声の底力と歌声への誇りを感じさせる素晴らしい合唱でした。歌声を愛し続けてきた卒業生の魂の歌声だったと思います。間違いなく、在校生の心と目に焼き付いたことでしょう。そして、最後に卒業生と在校生と一緒に歌い上げた全校合唱『群青』では、卒業生だけではなく在校生も涙を流しながら歌う生徒が多く、感動的な最後の全校合唱となりました。涙を流しながらもしっかり歌おうとする姿に、健気でいつも一生懸命頑張る成中生の綺麗な心が溢れ出ていたように感じていたのは私だけではないと思います。こんなに素晴らしい全校合唱を響かせられる学校が他にあるだろうか……私は、ただただ誇らしかったです。最後の全校合唱『群青』は、この学校の絆と確かな歌声の伝統を感じさせてくれました。そして、感動的な卒業式の余韻が今も残っています……。

3月11日（月）、「令和5年度 第77回卒業証書授与式」が举行されました。5年振りに全校生徒が体育館アリーナに着席して行われた感動の卒業式は、卒業生の心にも在校生の心にも確かに刻まれたに違いありません。卒業式前の最後の登校日に降った「名残り雪」が夢だったかのように、卒業式当日は、朝から明るい春の陽射しが降り注ぎ、林学年の卒業式を祝っているかのように感じました。3年生が全員マスクを外して入場してきた姿を見た時点から、私はもう胸がいっぱいでした。担任の先生からの心のこもった呼名、3年間の中学校生活への想いと感謝の気持ちが伝わってくる精一杯の返事……担任と卒業生との絆が、体育館いっぱいにこだましました。そして、自分達の歌声を誇りにしている成中生にしか響かせることのできない合唱に心震えました。

振り返れば、コロナ禍でまだまだ世の中の先が見えない社会情勢の中、先輩達に迎えられることもなく、『歓迎の歌』もない入学式で中学校生活のスタートを切った卒業生でした。どれだけの不安を抱えながら中学校生活が始まったのだろうかと今更ながら思ってしまう。それでも、多くの制限による数々の試練を、明るく


前向きな気持ちで乗り越えてきた卒業生は、3年生になってコロナが明けると、持ち前の明るさと行事へのエネルギーが一気に爆発し、全力感あふれる笑顔の日々を送っていました。3年間どんなことがあっても、屈託のない笑顔と真剣な眼差しを忘れることなく、学校行事や部活動に本気で取り組んできた卒業生が立派だったと思います。

そんなH学年の卒業生を、最後は、全ての在校生と職員で見送ることができて感無量です。最高の合唱を歌い上げ、立派に退場していった卒業生の後ろ姿が今も目に焼き付いています。最後の最後まで、**挨拶と歌声を大切に**する「成中生としての誇り」を失うことなく、学校教育目標の『夢へ』を大切に全力で駆け抜けてきた林学年の卒業生が旅立っていきました。この学校を巣立っていった卒業生の夢とこれからの人生を心から応援しています。188名の卒業生の皆さん、**さあ、夢へ！**

Mさん(2年)の「送辞」とBさん(3年)の「答辞」に感動

今年度の卒業式も、『送辞』と『答辞』が成中生の心に響きました。在校生代表 M.D.さん(2年)の『送辞』と卒業生代表 B.M.さん(3年)の『答辞』は、心打つ素晴らしい内容でした。卒業生代表のBさんが、『答辞』の最後に叫んだ「夢へ！」の一言が、成中生全員の心に響き渡りました。Mさんが伝えた卒業生への想いと、Bさんが残した成田中学校や後輩、先生方、そして、両親への想いを以下に記載しました。改めて読んで、心に刻んでください。

送 辞



寒さも少しずつやわらぎ、梅の花が、満開に咲き誇る、このよき日に3年間の中学校生活を、無事に終えられ、卒業を迎えられた、3年生の皆さん、ご卒業、おめでとうございます。在校生一同、心より、お祝い申し上げます。

2年前の春、入学したばかりの僕たちは小学校とは違う生活に慣れず、不安だらけでした。その中でも僕たちに親切に接してくれた先輩方の存在はとても大きく、まぶしく感じられました。

暑い中、両軍共に汗を流し、本気で戦った体育祭。「笑顔輝け！個性で戦え！～紅白って504色あんねん～」というスローガンのもと、全力で闘っている先輩方の姿をみて、僕たちは心に残る思い出を作ることが出来ました。応援合戦では、団長を中心とした両軍の熱い思いに胸が打たれ、私たちも「優勝」という一つの目標に向かって、全力で勝利に向かっていくことが出来ました。かれた声を振り絞り、応援している姿は今でも目に焼き付いています。

今年の合唱コンクールのスローガンは「共鳴× 響命～再びここで響かせて～」となり、数年ぶりに成田国際文化会館で行われました。帰りの会、朝の会にどのクラスからも聞こえてくる美しく、力強い歌声に心を打たれました。そして、合唱コンクール当日、ホールいっぱいに響きわたった先輩方の歌声に圧倒されるのと同時に私たちに感動を与えてくれました。そして、その歌声が、私たちの目標となりました。

体育祭、合唱コンクール、どの思い出をとっても先輩方はいつも私たちの前に立ち、引っ張ってくださいました。しかし、頼りにしてきた先輩方とも、いよいよお別れしなければなりません。これからは在校生が一丸となって皆さんの築き上げた伝統をしっかりと受け継ぎ、何事にも最後まで諦めず、一生懸命に取り組むことのできる成田中を目指し、頑張っていきます。卒業生の皆さんも、この成田中で得た知識や経験、思い出を胸にこれからの道を歩んでください。卒業生のみなさん、最高の思い出をありがとうございました。在校生一同、これからの、みなさんのご活躍とご健康を心からお祈りし、送辞といたします。

令和6年3月11日 在校生代表 M.D.

答 辞

『当たり前が 幸せと知った』

私たちが成田中学校の生徒として臨む、最後の合唱曲である『群青』のフレーズです。その意味を私は今、深く感じています。そして、同時に3月11日という日に卒業式を迎えたことにも、何か導きを感じます。



例年よりも早く桜が咲き始め、春の訪れを感じさせる今日、私たち188名は卒業の日を迎えました。

3年前、私たちは進学した大きな期待と中学生という未知の世界に不安を抱きながら成田中学校の門をくぐりました。まだ新型コロナウイルスの爪痕が残る入学式。何をすることも「マスク着用」「ソーシャルディスタンス」。クラスメイトの表情も見ることができず、なかなか絆を深めることもできませんでした。そのような環境であっても、部活動や行事を全力で楽しむ先輩方の輝く姿に、私たちは刺激を受けました。一つ進級した2年生。初めてできた後輩という存在。これまで見てきた先輩方の姿を追いかけながら試行錯誤の毎日であったことを覚えています。そして最高学年。芽生え始めた責任感と最後の中学校生活への思い。様々な学校行事がめまぐるしく過ぎていきました。その中でも鮮明に心に刻まれた行事が合唱コンクールです。毎日、校舎に響き渡る歌声は、私たち成田中学校の生徒としての誇りです。その集大成ともなる合唱コンクール。4年ぶりの成田国際文化会館での開催となり胸を弾ませていました。しかし、合唱練習では息が合わず、厳しい局面に立たされることもありました。その度に、仲間と合唱への思いを確かめ合い、自分たちにしかできない歌声を目指しました。クラス一丸となり最終日まで全力で取り組み、ホールいっぱいに今までで一番の歌声を響かせることができました。ステージの輝き、一人一人の歌声が重なり合い、一つの合唱ができた感動を私は一生忘れません。

在校生の皆さん。先日の予餞会では心温まる時間をありがとうございました。私たちのためにたくさんの準備をしてくれたことがとてもうれしく、そして皆さんの存在を頼もしく感じました。これまで、私たち卒業生が何か一つでも皆さんの心に残すことはできたでしょうか。「今しかできないこと」「自分にしかできないこと」の一つでも多く創り上げてほしいです。そんな皆さんに私が大好きな成田中学校の未来を託したいです。

3年間、一番そばで温かい声をかけ続けてくださった先生方。どんな時も「頑張れ」「もう少しだ」と私たちを励まし、背中を押してもらいました。本当にありがとうございました。先生方からもらった言葉を胸に、進学先でも『成中生』として恥じぬよう、夢へ向かって全力で頑張ります。

そして生まれてから15年間支え続けてくれたお父さん、お母さん。時には些細なことで言い合いになり、反抗的な態度で心配をかけたこともありましたが、そんな私たちをいつでもお父さん、お母さんは笑顔で受け止めてくれました。時には自分のことは後回しにして、私たちのために費やしてくれることも多かったと思います。だから私たちは安心して中学校生活を送ることができました。お父さん、お母さんありがとう。

そして、3年間ともに過ごしてきた仲間。教室で過ごした何気ない休み時間。他愛もない話で盛り上がった帰り道。そんな日々はもう戻ってこないのだと思うと、どうしようもないくらいの寂しさがこみ上げてきます。苦しいこともみんながいたから乗り越えられました。本当にありがとう。

当たり前だと思っていた日々が、何ものにも代えがたい幸せでした。そんな思いに包まれて私たちは今、成田中学校を巣立ちます。それぞれの夢へ向かって、新たな一歩を踏み出します。夢へ！

最後になりましたが、成田中学校の益々のご発展をお祈りして答辞といたします。

令和6年3月11日

卒業生代表

B.M.

☆卒業式フォト☆ ~全力感の笑顔溢れる集団でした！よく踊り、よく歌った！~



卒業生H学年の皆さん、『夢と勇気』を胸に、希望の未来へ向かって大きく羽ばたけ！